

パネルディスカッション【今を楽しむ電動車いす】 イベント報告

片石 任

(一社) 日本リハビリテーション工学協会 乗り物 SIG 事務局
株式会社フロンティア 福祉本部

1. はじめに

乗り物 SIG はメンバー数こそ少ない（現在 5 名）が乗り物に関するそれぞれのフィールドを日々楽しんでいる。その乗り物 SIG が 3 月 10 日（日）に主催したイベント【今を楽しむ電動車いす】の様子を報告する。

2. この内容で 2 時間 35 分しかないのか？

最近、電動車いすを取り巻く環境の変化が著しく、また日常における問題も山積みである。そこで、ユーザー、メーカー、エンジニア、フロア参加者も交え多角的にあらためて電動車いすの活用やすばらしさを共有、再認識することをイベントの目的とした。プログラムは「当事者参画で実現したこと」（当事者講演：30 分）、「可能性の引き出し」（エンジニア講演：20 分）、「どっちが快適？新幹線 or 飛行機」（ユーザー実証実験：35 分）、「パネルディスカッション」（ユーザー、メーカー、エンジニア：70 分）と盛りだくさんの内容で 2 時間 35 分しかない。しかも休憩時間中の機器展示、製品展示もある。当日の司会進行を仰せつかった私は大汗をかきつつ時計と時間割りとのにらめっこであったが、本音が飛び交った会場の雰囲気と一緒に楽しんだ。会場にはチン・コントロールやヘッド・コントロールの電動車いすをはじめ、使いやすさを考えたこだわりの電動車いすが集まった。会場は西武池袋線練馬駅直結の場所だったが遠方より飛行機や新幹線で駆けつけてくださった参加者もあり、会場内に多くの電動車いすが集まった光景は壮観であった。今日会場に来る

までの話を聞くだけでも楽しく、乗り物 SIG メンバーとしてワクワクする時間であった。



図 1 会場の様子

3. あっという間の 2 時間 35 分

パネルディスカッション用に会場からの意見・質問が少なかった場合にそなえて何個かネタを準備していたが、それも会場から意見、質問で出てきて準備していたネタたちは使わずじまいとなりうれしいかぎりであった。休憩時間の機器展示も盛況で持ち込まれたデモ機、商品に会場は興味津々の様子だった。熱く、濃いイベントになったと感じた。

4. おわりに

パネルディスカッションで「あなたにとって電動車いすとは？」のお題に対してとても印象に残る回答があった。「名刺代わりです。」聞いた私はうなづきました。体の一部でもあり、移動機器でもあり、なにより自分自身を表す存在の電動車いすなのである。こじんまりとしつつとても楽しいイベントとなった。また開催したいと思ったのは私だけではないはずである。

(一社) 日本リハビリテーション工学協会
乗り物 SIG 事務局